

べきものなりとす。

三、統制経済及共産主義を排し厚生経済を樹立す (国民自治経済の樹立)

今日の資本主義経済は最初自由主義であつたが今日となつては完全に独占資本に統制せられ、而も統制の主体が、国家にも国民にも基礎なき存すの私火の手にゆだねられ居る。国家は国民の立場から見れば統制経済がある。共産主義は完全なる計制経済であつて国民の自発的な産業活動を全く無視したる無制限なる統制である。之は国家的に基礎があるとは云へやうが国民の個性は全く殺して居る。之は国民の本心を認めない故に明かに皇道と区れて居るのみならず経済以外の政治、教育、道徳等に於ても全く人類を畜生道に墮落せしむるもので根本的に悪の悪であらうから此せかゝる共産主義は一切も早く討滅して終はねばならぬ。

厚生と云ふ意味は、国民生活をして、国民の任務遂行を可能ならしむる如く経済を指導するの事ある。国民の自発的な産業活動を尊重し商業機關の自発的な活動に依つて生産の増大と共に国民の購買力を増大し、即ち今日の如く生産の増大と購買力の増大とが併行しないのみか生産の増大が購買力の進行を迫して恐慌を引き起すが如き争ひの無い状態にするのである。即ち生産に照應するだけの購買力が常に国民に供へられるやうにして、統制せず生産が進行して行く経済組織と云ひるのである。

四、自由主義及独裁主義を排し皇道國家天皇政治の實現を期す (榮政一致)

自由主義も独裁主義も共に個人主義である。個人が孤立して生存して居る全体の本質的關連を自覚しない場合には、自由主義を交れば独裁主義となりより外に仕方が無い。即ち一人又は数人若くは一団の強い勢力に對して他の全部は盲従するのであるから之は盲従する方は争大畏懼があり、命令する方は尊厳である。即ち君万民の一大家が國家に於ける国民と天皇との一体關連